

今月のテーマ:薬物療法(経口薬)

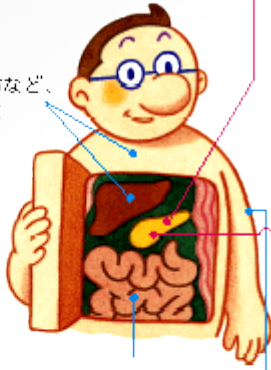
血糖降下のしくみ

○SU薬

おもに、膵臓のインスリン分泌を促して血糖を下げる。

○BG薬

肝臓、筋肉、脂肪など、膵臓以外の組織に作用して血糖を下げる。



○α-グルコシダーゼ阻害薬

小腸内での、糖分の分解・吸収を遅らせて、食後の高血糖を抑える。
インスリン依存状態の人にも有効。

○速効性インスリン分泌促進薬

薬を飲んだ直後の短時間だけインスリン分泌を促進し、食後の高血糖を抑える。

○DPP-4阻害薬

血糖値が高いときにだけ膵臓に働きかけてインスリン分泌を促し、グルカゴン分泌を抑制して、血糖値を下げる。

○インスリン抵抗性改善薬

筋肉などの細胞でのインスリン作用を高め、糖分の取り込みを促進する。
とくに肥満糖尿病に有効。

薬物療法とは食事療法・運動療法を行っても血糖コントロールが良好でない場合に、経口薬の内服やインスリン注射によって血糖をコントロールする治療法です。

薬物療法をしているからといって、食事・運動療法が不要になることは決してありません。継続が大切です！！

自分の内服薬がどの種類のものか確認し、どんな副作用があるのかを知っておくことが大切です。

最近では、経口薬の種類が増え、複数の経口薬を併用するケースも増えていますので、それぞれの薬を正しく服用することが、より大切になってきます。

ただし、同じ薬であっても服用方法は人によって異なる場合がありますので、主治医の指示に従って内服してください！



経口薬の種類				服用方法	主な副作用
SU薬	アマリール グルメピリド	ダオニール	グリミクロン	食前又は食後	低血糖・肝障害 ・再生不良性貧血
ピグアナイド薬 (BG薬)	メグルコ	メデット	グリコラン	食後	乳酸アシドーシス・肝障害
α-グルコシダーゼ阻害薬	グルコバイ アカルボース	パイン ボグリボース	セイブル	毎食食直前	腹部膨満・放屁・腹痛 ・肝障害
速効性インスリン分泌促進薬	ファステック	スターシス	グルファスト	毎食食直前	低血糖・肝障害
DPP-4阻害薬	ジャヌビア グラクティブ	ネシーナ	エケア		SU薬との併用で 低血糖
インスリン抵抗性改善薬	アクトス アクトSOD			朝食前または朝食後	心不全増悪・浮腫・体重増加・肝障害・貧血

低血糖への対応について

食事量がいつもより少なかったり、食事時間が遅れたり、運動量が多すぎたりすると、低血糖が起きやすくなります。

<血糖値>

<症状>

70ml/dl

空腹感・脱力感
冷や汗・皮膚蒼白
動悸

50ml/dl

頭痛・悪心
嘔吐・目のかすみ
集中力低下・意識障害
痙攣・昏睡

30ml/dl

■低血糖症状が起きたら・・・

ブドウ糖（5～10g）、または
ブドウ糖を含む清涼飲料水（150～200ml）、
砂糖（10～20g）を摂取すると、症状は改善します

■SU薬とαグルコシダーゼ阻害薬（ベイスン・グルコバイ・セイブル）
を併用している場合は、必ずブドウ糖で対処して下さい。
（糖の吸収を遅らせる薬なので、ブドウ糖が一番効果が速い）

砂糖（飴玉）やブドウ糖を携帯しましょう！

Q & A（よくある質問をご紹介します）



Q：内服を飲み忘れてたり、飲んだのかわからなくなったときはどうしたらよいのでしょうか？

A：慌てて飲まずに、その次から忘れずに飲んでください。2回分まとめて飲むのは危険です。
薬をあらかじめ1回分や1日分に分けて、習慣づけて服用するのが一番よいでしょう。

Q：薬を飲んでいてから、たくさん食べても大丈夫ですか？

A：糖尿病薬は血糖を下げるもので、糖尿病そのものを治す薬ではありません。食事・運動療法を
守らなければ血糖をコントロールするのは困難です。いかなる場合も食事・運動療法が基本です。

Q：食事をしないときでも、薬を飲まなければならないのですか？

A：食事を抜いたときは、基本的には薬は飲まないでください。血糖降下薬は低血糖を引き起こす
可能性があるからです。風邪や、下痢・嘔吐などの症状がある場合は、薬の自己中断をせず
医師に相談してください。

Q：糖尿病は治らない病気だと聞きましたが、一生薬をのまなくてはいけいのでしょうか？

A：糖尿病はインスリンを補充するか、感受性を良くすればよくなります。しかし急性の病気とは
異なり、「良い治療状態を継続して、良好な血糖コントロール状態を続けることで合併症を
起こさず健常者と同じように生活できる病気」です。

2型糖尿病では、食事・運動療法をきちんと行い、血糖コントロールを良好に保つと、インスリン
分泌やインスリンの効きが回復し、薬をやめる事ができる可能性もあります。

経口薬が使えない場合

—こんな場合はインスリン療法の適応に
なります—

- ・経口薬を服用しても血糖値が低下する兆
しがみられない
- ・妊娠中、または妊娠の可能性がある
- ・手術前後
- ・肺炎など重症の感染症にかかっている
- ・足に壊疽がある
- ・肝臓または腎臓に重症の機能障害がある

MERRY CHRISTMAS

クリスマスとお正月、
食生活に甘い物やお酒が
たくさん加わる季節です！

食べ過ぎ、飲み過ぎ
運動不足などに
注意しましょう☆



今年も残すところ、あとわずかになりました。来年も皆様の健康を心より
お祈り申し上げます。 ウェルネス天神クリニック 一同